

## 1. 「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨」に伴う常総市内の鬼怒川越水・決壊現場の視察研修会の報告

平成 28 年 12 月 18 日(日)国土交通省関東地方整備局下館河川事務所の里村所長及び同担当職員から、当時の線状降水帯による集中豪雨で 24 時間雨量は 551 ミリを記録し、常総市若宮戸地区が越水、同市三坂地区で 200m に渡り決壊した状況について説明を受け、河川の幅、堤防の高さや厚みの構造、水量や水圧等について現場で堤防の模型から学んだ。

同地区は、激甚災害の指定を受け、現在、鬼怒川緊急プロジェクトとして、ハード面においては、決壊越水、漏水箇所等の堤防を災害復旧事業により 28 年度末に整備完了予定。平成 32 年までには、上流含め 44.3km・総予算 600 億の整備計画がある。

ソフト対策では、住民避難を促すため「タイムライン」の整備を支援し、これらの訓練や、洪水に対し、リスクの高い地域では、水防団、地域住民との共同点検や河川流域の「減災対策会」を立ち上げ、継続的に取り組む予定がある。

午後からは、「災害対応と教訓」について常総市役所塩畑副市長の挨拶後、担当課長からパワーポイントを使用し、河川の氾濫状況、救助、水害ゴミで見えた課題、水害対応の検証・提言、タイムライン作成等の説明を受けた後、質疑応答などもあり、NPO 法人茨城県防災士会西村理事以下防災士 24 名が大変有意義な研修を行った。



## 2 平成 28 年度茨城県ぼうさい大学の防災啓発研修会における災害図上訓練支援

平成 28 年 10 月 29 日(土)常陸大宮市美和工芸ふれあいセンターにおいて、茨城県防災危機管理局防災・危機管理



課が主催する標記研修会が開催された。同課から NPO 法人茨城県防災士会に「災害図上訓練 DIG」の依頼があり、当法人講師、リーダー中村副理事長以下役員、県央エリア、県北エリア防災士 13 名が参加し、開催された。この研修会は、地域の防災リーダーを育成することで自主防災組織の結成を促進し、地域の防災力向上を目的としている。「災害図上訓練 DIG」では、約 140 名の出席のもと、各 16 テーブルに防災士がアドバイザーとして担当した。地区のハザードマップから予想される災害の特徴をマップに落とし討議した。また、地図を囲み、密集地で火災が発生、風向きを考慮し、災害時要配慮者の救出順位など危険度を勘察し、グループ討議を行い、各テーブルで発表する熱の入った有意義な研修会となった。

## 3. 地元企業と自主防災組織が小型消防ポンプ操法の防災訓練～茨城新聞掲載～

平成 28 年 11 月 26 日(土)、水戸市住吉町(住吉上防災会 会長加瀬孝雄:防災士)では、昨年 8



月に自主防災組織(世帯 400 戸)を結成した。同組織は地区実態にあった防災計画書を策定する傍ら、企業の所有する可搬式小型消防ポンプの操法訓練を行った。大規模地震時の初期消火を想定した訓練であり、同社とは本年 2 月小型消防ポンプ、車両、発電機等の使用の協定書を結んでいる。

訓練時は、子ども達は、3 班に分かれ「まちなか探検」や「管パイプを使用」「写真提供広報部門」したジャッキ使用要領」や「非常食炊出し訓練」等に 80 名が参加した。



#### 4. 平成 28 年度茨城県・神栖市総合防災訓練

平成 28 年 11 月 27 日(日)神栖市立波崎第2中学校が会場として開催された。会場では建物筋交いモデル、感震ブレーカー体験モデル、液状化現象の模型等を展示し、体験させた。

5 年前の東日本大震災では、潮来市「日の出地区」同様、神栖市内でも液状化被害が発生したところから、中学生も興味を示し、真剣に取り組んだ。同地区は、海拔も低いところであり津波被害の可能性もあり、防災意識の高い地域である。



「写真提供・野口防災士」

#### 5. 各種講演会・研修会の実施 (28. 10. 1~28. 12. 31)

##### (1) 茨城県関係(茨城県生活環境部 防災・危機管理局 防災・危機管理課)

内 容	開 催 場 所	講 師 等
いばらき防災大学 D I G 研修 10/29	(常陸大宮会場：美和工芸 ふれあいセンター)	志田美智子、高矢芳幸、大高仁護、大内洋治、渡辺 平 柴田美智子、榎田 英、小川欽也、加瀬孝雄、井上亮二 益子さや子、阿久津聡、中村 隆、西村正夫
いばらき防災大学 防災士の役割 11/26	(常陸大宮会場：美和工芸 ふれあいセンター)	西村正夫

##### (2) 学校防災関係・避難所運営 HUG 等

前号掲載以降に行われた各種講演会等における講師は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

体験教室(竜巻 VTR,担架搬送等) 10/14	結城市立結城小学校	安東正好、鈴木勇
地域と学校が連携した防災教育 11/5	日立市立十王中学校	小川欽也、鈴木孝二、皆川雅明、人見克彦、渡辺平
HUG 訓練及び防災グッズ体験 11/5	常陸太田市立水府小学校	井上亮二、益子さや子、柴田美智子
親子で防災体験 11/11	笠間市立岩間保育園	柴沼雅子、益子さや子
自然災害から身を守る 12/26	城里町立石塚小学校	西村正夫

##### (3) 自治会、自主防災組織、社会福祉協議会関係

前号掲載以降に行われた各種防災講演等に於ける講師は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

内 容	対 象 団 体 名	講 師 等
大規模災害時「避難所開設 と運営」 9/30	牛久小学区地区社会福祉協議会、 防犯、防災専門部会	中村 隆、横山松夫、横田信子、野村 彰、坂弘 毅、山田 章、貝塚 勇、林 昌子、鶴長文正、 澤田幸一、渡部輝雄、間宮和光
減災・防災がメインテーマ (体験学習 DIG 研修等) 10/1	古河市生涯学習課 (古河福祉の森会館)	安東正好、飯沼 実、矢野靖彦、矢野恵津子、 荻野悦男、笠島昇治、鈴木 勇、中村 隆、 福島末輝、西村正夫
避難訓練・災害備蓄品の 点検と発電機使用要領 11/5	茨城県・県北生涯学習センター	小川欽也、鈴木孝二
避難所運営マニュアルに沿 った総合訓練 11/6	阿見町総合防災訓練	渡部輝雄、松本昭、中嶋敏雄、岡野洋司、鶴長 文正、野口益夫、坂弘毅、横山松夫、横田信子 中村 隆、福島末輝、西村正夫
おや子劇場ゆめひろば 11/23 30 周年フェスティバル	ワークプラザ勝田多目的ホール	志田美智子、豊崎吉光、大内洋治、高矢芳幸 加瀬孝雄

自主防災組織と企業の訓練 (小型消防ポンプ訓練) 11/26	水戸市住吉上防災会	加瀬孝雄
結城市総合防災訓練 展示ブース設置 11/27	結城市市民センター	西村正夫、鈴木勇、荻野悦男、笠島昇治、尾形正彦、高山芳男、飯沼実、鈴木親男、中島悌次、安東正好
神栖市総合防災訓練 展示ブース設置 11/27	神栖市立波崎第2中学校	野村彰、野口正弘、大川太作、藤城允英、石引公子
自主防災組織講演会 12/1	大子町福祉会館「まいん」ホール	益子さや子
防災講演 12/9	水戸市・アットホームパル	横山松夫、西村正夫
女性防災講演 12/10:12/11	茨城県青少年会館・土浦男女共同参画センター	若林美智子、林昌子、石引公子、山本美和、益子さや子、柴田美智子、小室太、福島末輝、西村正夫
防災啓発(防災機材展示)	常陸太田市社会福祉協議会 12/11	小川欽也、櫛田英、海野定史、小室太
災害ボランティアリーダー養成講座 12/17	ひたちなか市社会福祉協議会	加瀬孝雄、豊崎吉光、渡辺平、大内洋治、志田美智子、山根実、磯野好久

#### (4) 防災訓練への参加

前号掲載以降に行われた防災訓練における参加状況は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

内 容	対 象 団 体 名	参 加 会 員
展示・体験コーナー設置 10/29	土浦市総務課危機管理室	横田信子、浅野奉子、岡野洋司、山田章、平石勝司、井出洋一、横山松夫、福島末輝
地区防災訓練・防災機材説明 11/6	土浦市立乙戸小学校	宮本博海
土浦市霞が岡防災訓練 11/19	土浦市霞が岡町会	福島末輝
地区防災訓練 11/20	鹿嶋市平井まちづくりセンター	野口正弘、長屋和宏、藤城允英、大川太作

#### (5) 視察研修

前号掲載以降に行われた防災訓練における参加状況は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

茨城県防災士会視察研修会 12/18	常総市若宮戸、 三坂地区決壊現場	西村正夫、福島末輝、中村隆、黒田一雄、加瀬孝雄、阿久津聡、志村謙一、飛田昭、大高仁護、小川欽也、山田章、市川清次、宮本博海、野村彰、小池實、小島直子、藤城允英、片山整、佐藤博一、荻野悦男、飯沼実、渡辺平、松本昭、
-----------------------	---------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※研修会・講習会出席者調査(報告のあったもの) 広報・機関紙副部長 小池實

### 関東・東北豪雨を振り返って

県西エリア防災士 飯沼 実

1年3ヶ月前常総市を襲った大水害では、昭和61年の小貝川決壊を上回る規模の災害でした。9月9日深夜12時を回った頃、ラジオから西仁連川堤防決壊の報道で起床した。午前6時ころ、常総市消防本部北署から豊岡消防分団長の私に豊岡地区で床上浸水が発生、同地区の排水作業の指示があり、同作業に従事することになった。その後、鬼怒川西岸(樋口地区)へ配置となり、消防署員、分団員、地区の住民約30数名と土嚢を作り、越水箇所へ搬送を繰り返した。搬送作業は、車両で約1km離れた溢水場所への搬送であり、約4時間を費やした。地元の人達とこの越水を食い止めるため伝統工法作業で土嚢を積み行われた。共同作業の必死の作業で何とか食い止めようとする絆は深く、大変ありがた

く感じた。午後1時ころ、消防本部から、増水は止んだとの連絡が入った。後で知ることとなるが、鬼怒川東岸の三坂地区の堤防決壊により水位が減ったことがその理由であった。

堤防決壊後、活動は多岐に渡りましたが、決壊当日の深夜の午前1時ころ被災者への救援物資(水、非常食、懐中電灯等)を消防署員、分団員などが消防署のボートで搬送した。通常では、10分で行けるところが、泥水や流木、ゴミなどが流れてくるため、この障害物を避け、安全確認しながら進むので一時間程度を要した。非常食・水等を被災者に手渡しした際、安堵の顔と感謝の言葉を頂き、危険な業務ではあったが、分団長として責任を果たし、ホットしたことを今でも思い出することができます。

### 女性防災士紹介記事 志田田美智子「現教諭」～防災士としての活動～

防災士の資格は、平成10年に取得しました。救急法指導員のスキルアツプを兼ねて、アマチュア無線免許やフットケアの資格を取るのと同様に考えていました。それから1年後、まさか東日本大震災に遭遇するとは想像もしていませんでした。陸前高田市に災害ボランティア要員で行くよう指示を受けました。列車手配、寝袋、ヘルメット等も用意し、避難所設営場所である遠野についた時は夕方でした。新米の防災士で、防災訓練しか経験したことのない私に勤まるかどうか不安でしたが、救急法指導員を主に少しでも役に立てばという気持ちでした。夜は、避難所運営、昼間は救急法の指導員として夜の睡眠時間を除いて、1週間フル活動しました。ボランティアを終了し、勝田に戻ってからも福島、宮城、岩手三県には復興のお手伝いに機会を見つけて訪れました。最近では、DIG や HUG 研修に参加する機会が多くなり、更に自己研鑽を続け、活動していきたいと考えています。

### ◎参考資料の紹介「防災ガイド2016版」

緊急企画として熊本地震 救援現況、災害時の外国人支援、政府対策と企業・住民の取り組み、地域防災計画フォーラム、地区防災ガイドラインなどが満載、スキルアツプには、奨励図書です。出版 事業構想大学院大学 1,300円

### ◎市町村の防災担当課の皆様へ

NPO 法人茨城県防災士会では、各種防災講演会や研修会の講師、DIG(災害図上訓練)やHUG(避難所運営ゲーム)、防災マップづくりなどの指導を行っております。

講師をお探しの場合は、下記までご連絡下さい。

窓口:福島末輝(役職 副理事長(兼)企画・研修部長) TEL029-842-1823(自宅・FAX 兼用)

連絡先:〒300-0842 土浦市西根南1-12-44 メールアドレス [sueki-f@jcom.home.ne.jp](mailto:sueki-f@jcom.home.ne.jp)

### ◎今後のイベント案内

(1) 第8回ブロック長会・会員スキルアップ研修会の開催(水戸市福祉ボランティア会館ミオス) 平成29年2月4日(土) 午前9時～正午

(2) 平成29年度NPO 法人茨城県防災士会通常総会の開催

◎開催場所 水戸市福祉ボランティア会館 ミオス jR 赤塚駅より徒歩1分

水戸市赤塚1丁目1番地 電話 029-309-1001

◎開催日時 平成29年4月23日(日)午前10時00分から

その他、平成29年度会費納入について、本年度も総会ご出席の折、年会費(1,000)お受け致します。

(3) 平成29年度北関東連絡協議会総会の開催

◎日時 平成29年4月29日(土)午前11時から午前12時まで

◎場所 高崎市総合福祉センター 高崎市末広町115-1 3F 会議室4 電話 027 370 8822

### 会員の皆様へお願い ;

「関東・東北豪雨による鬼怒川決壊に思うこと」や「常総市へのボランティア活動体験」を会員皆さんに募集しています。原稿は、400～500字程度でお願いします。

・送付先 : 〒310-0844 水戸市住吉町15-3 加瀬 孝雄 宛

・E メールアドレス:[abcd25621@yahoo.co.jp](mailto:abcd25621@yahoo.co.jp) ・Tel : 029-248-1097。携帯 090 2202 5737